

「時を守り、場を清め、礼を正す。これ現実界における再建の三大原則にして、いかなる時・処にも当てはまるべし」とは、愛知県出身の哲学者で教育者の森信三先生の『学校の職場の再建三原則』であります。あらためて、社会生活をする私たちの必須の原則であると思えます。いずれも、キーワードは「敬意」「尊重」でありましょう。

まず「時を守る」ですが、私たちの社会は「時」を共有することで成り立っています。その共有する時間を尊重することです。相手や全体の時間を尊重し、約束の時間に遅れない。万一遅れなければならぬ場合は、必ず事前に連絡する。信頼関係を築く基礎です。商売の世界でも「遅刻するセールスマンから買ってはいけない」と言われるそうです。授業や行事や試合など、開始の少し前には心身を整えておく必要があります。自分のコンディションを最高にして、全力投球のためです。

また、時間を大切に使う。言うまでもなく、地球上のあらゆるものに、毎日二十四時間余が与えられます。それを自分はどう使うのか。限られた中で、やるべきことの優先順位をどのようにつけるのか。睡眠や自己回復のための時間が必要です。期限の決まったなすべきことがあります。先年、研修旅行で訪れた韓国の交流先の高校で、自習室の壁にこんな落書きがありました。「今こゝで眠ると夢を見ると夢が実現する」と。家族が寝静まった深夜に黙々と勉強するのは、「学問のさびしさに堪へ炭をつぐ」という山口誓子の句を思い出しますが、目標達成のために、今自分はこの時間をいかに使うか、考えましょう。

「場を清める」とは、まず「場」に敬意を払うことです。私たちの生活の一切は、どんな場面も、それぞれの場に支えられて成立しています。黙って私たちの「生きる」を支え包み寄り応援して下さっている何かがあります。人生の先輩方はそれを「おかげさま」と大事にしてきました。寺社の境内や学校、またその中でも本校の講堂のような大切な場の出入りには、必ず一礼をすることを習慣にしなければなりません。

具体的には、施設・設備等を丁寧に使い、後片付けし清掃する。席を立ったら椅子を入れる。履き物を脱いだら必ず揃える。次に使う人の気持ちよさも想像しよう。また掃除しながら気づかされることはたくさんあります。心を磨き武芸の本質を極めるにあたって、掃除がいかに重要かは古来多く説かれているところです。足下のゴミを拾えないで何の実践もありません。鏡を磨くと自分がよく見えるように、場を清めるのは、心を清めることになるのです。場の空気をよくするために何ができるかも大事なことです。道具を粗末に扱う人は決して一流にはなれないと言われます。

「礼を正す」は、身を正して礼を尽くすことです。挨拶をする。されてからではなく、自分から相手に聞こえる声で、相手が気持ちよくなる挨拶をする。返事をする。呼ばれたら、はっきりと「はい」と返事をする。どちらも、相手を認め大切に接しているとの表明です。校訓「相互敬愛」の具体的実践です。距離感を考え相手の身になって、嫌なこと不快なことは慎み、ふさわしい言葉遣いと身だしなみを心がけましょう。

スポーツ、特に武道では、何よりも礼が重んじられます。ルールを守り、思いやりをもち、品格のある立居振舞いは人間としての魅力を高め、一層上達に向かいます。

慣れて横着になると、鈍くなります。謙虚に接するといっぱい吸収できます。世界に通用する人たちに共通するのが謙虚さではないかと思えます。「弟子の準備ができると師が現れる」と言われますが、『無量寿経』にも弟子の阿難が釈尊に対して礼を正すことで、心を受け入れ状態にする様子が描かれています。

以上の三つの基本原則は、それぞれに重なり合っています。時を守るのも場を清めるのも礼を正すことです。謙虚になって礼を尽くす人こそが成長を実感し、感謝と喜びの、そして感謝され喜ばれる人生を歩むでしょう。